

第6回 真砂地区学校適正配置地元代表協議会

1 日 時 平成21年1月21日(水) 16時00分～18時00分

2 場 所 真砂コミュニティセンター 第1講習室

3 出席者

(1) 委 員

*欠席委員：土屋(敏)委員

*代理出席：森本委員の代理として赤木氏(真砂第二中評議員・PTA会長)が出席

(2) 事務局

山崎課長、古舘主幹、加茂主査、伊藤主査補、齊藤主事

(3) 傍聴者 9名

4 議題

(1) 真砂地区の適正配置の方向性について

(2) 次回開催日時・場所について

5 会議資料

(1) 資料1 真砂地区の適正配置【参考シミュレーション】

(2) 資料2 真砂地区学区図

(3) 資料3 今年度推計による真砂地区の小・中学校の状況について

(4) 資料4 学校の適正規模について

6 議事の概要

(1) 真砂地区の適正配置の方向性について

資料をもとに、真砂地区の学校適正配置の方向性について協議し、小学校については、参考統合シミュレーション1(真砂第一小学校+真砂第四小学校、真砂第二小学校+真砂第三小学校)を真砂地区の方向性とする事とした。

(2) 次回開催日時・場所

平成21年2月18日(水)午後4時から6時、美浜区役所3-2会議室にて開催することとした。

7 会長挨拶

委員の皆様は、学校に関わる様々な団体の代表者として、この協議会に参加をいただき、協議会の資料や協議内容は、各団体に持ち帰り、意見を吸い上げながら、次の協議会に臨まれているものと思う。

真砂第一小学校と真砂第四小学校の保護者会では、先月、合同の報告会を開き、保護者が教育委員会の担当者から直接疑問点等を聞けるような機会を持ったと聞いている。また、他のPTA・保護者会の代表者におかれても、それぞれの方法で、情報提供や意見聴取をしておられると聞いている。

PTA・保護者会の代表の皆様におかれては、本日はその成果等を踏まえ、また、自治会等地域の代表者の皆様も、それぞれのお立場を踏まえながら、建設的な議論をお願いしたい。

学校適正配置の趣旨は、より良い教育環境の整備と教育の質の充実にある。地域や保護者にとっての学校の在り方も重要だが、最も重要なのは子どもたちにとっての学校の在り方だと思ふ。いろいろなお考えもあるだろうが、最終的には、この真砂地区の子どもたちの教育環境をいかにすべきかとの視点で、考えていただき、真砂地区の方向性をまとめていきたいと思ふ。ご協力のほどをお願いしたい。

8 発言要旨

(1) 真砂地区の適正配置の方向性について

ア 保護者の代表者からの意見

〈富田議長〉

前回までの協議で、「事務局から示されたシミュレーションについてはよくわかったから早く結論を出したい。」という意見があった一方で、保護者会代表からは、「保護者には、まだはっきり理解できていないところもあるので、教育委員会の方から直接、説明を受け質問をする機会が欲しい。」という意見があり、教育委員会から保護者へ直接説明をする機会等を設け、保護者の意見を吸い上げた上で検討していくことになった。

そこで、真砂第一小と真砂第四小の保護者会では、12月末に合同の報告会を開き、教育委員会から説明をいただく機会をもった。また、他のPTA・保護者会においても、それぞれの方法でこれまでの協議会の内容について、情報提供と意見聴取をしていただいているものと思う。その状況も踏まえて、ご意見を伺いたい。これまでの会で発言の機会に恵まれなかった方もおられるので、今日のご出席の各委員からご意見を伺うことにしたい。まずは保護者会の代表の方の意見をお聞きしてから、議事を進めたいと思ふ。

〈島村委員〉（真砂第一小）

まず、12月20日の真砂第一小・真砂第四小合同保護者説明会だが、この説明会には事務局の方にも出席していただいた。これまでの協議会の経緯や内容を説明した後、保護者と事務局の質疑応答を行った。その際、今までの協議会の主な資料は全部配布した。当日出席された人数はあまり多くはなかったが、熱心な質疑応答と意見交換が行われた。保護者から出された疑問点の主なものとして、「統合の必要性について」「地元代表協議会について」「保護者の意見の反映の仕方について」「少人数加配教員について」「統合決定後のスケジュールについて」「通学路の安全対策について」「先生が統合とどうかわるのか」「統合後の保護者会・PTA組織について」「子どもルームについて」「中学校の統合について」といったものがあった。これらについては、具体的な質問をまとめてあらかじめ教育委員会の事務局に示し、当日それについて詳細に回答をいただいた。

保護者としては、「統合に賛成・反対というより、実際にこれからどうなるのかが知りたい。」「実際に決めていくときには保護者の意見はどう反映されるのか？」という意見が多かったと思う。そろそろ保護者にも具体的なスケジュールなどが説明できるとよいと思う。

〈黒川委員〉（真砂第二小）

真砂第二小はアンケートを行い保護者の意見を吸い上げている。集計結果によると、反対は多くない。「自分の学校は現在適正規模なので、真砂第三小が真砂二小のところに来てくれるだろう。」と考えているようで、協議会のことを報告しても「よくわからない」と答える保護者が多い。統合の具体的な方向性が定まれば、保護者もそれに対して要望等を言えるようになるのではないかと。

〈大野委員〉（真砂第三小）

真砂第二小と同じようにアンケートを行ったところ、統合に賛成が75名、反対が13名、わからないが42名であった。1年生の保護者が理解できるだけの情報がないと感じる。地元説明会に参加したことのある保護者は、昨年度からの状況もわかっているようだ。シミュレーションを配布した結果、「アンケートでは統合賛成が多数で統合することになると思うが、するなら、議論を活発化させて早い時期にする方が良いと思う。シミュレーションでは、平成26年度とあるが、平成26年度に統合という案があるのか。」といった意見があった。保護者が教育委員会と直接話をする機会をもちたい。

〈中家委員〉（真砂第四小）

今まで保護者へは、協議会の内容や進度はあまり伝えてこなかったもので、12月に真砂第一小との合同説明会を開いた。代表からの報告の後、教育委員会から統合の必要性等について説明をいただき、それに対する保護者からの意見をもらえた。小学校の統合も大事であるが、中学校については、免許外の教員が指導せざるを得ない状況や部活動の問題等もあり、むしろ中学校に早急な対応が必要なのではないかといった意見が保護者の中からあがった。

〈阿部委員〉（真砂第一中）

現在、学校で保護者へ協議会の話は出していない。今は受験シーズンでもあり、統合への意識は薄いと思う。「実際に統合するのはいつか？」「自分の子どもが統合の時期に関係なければ、統合にも関心がない。」という考えの保護者が多い。自分から情報を知ろうとしない親が多い状況を考えたとき、「保護者の意見の吸い上げる」とは、どこまですればいいのか疑問がある。例えば、統合に反対という1～2人の保護者の意見も吸い上げていては、話は進まないだろう。そういったことから、真砂第一中では、保護者を対象とした説明会を開催する予定は今のところない。そのような説明会で、教育委員会に直接意見を述べる機会を設けることにより、意見を言えば通るのではないかと、という誤解を招いてしまうのではないかと懸念している。保護者の意見を逐一吸い上げてはられない。また、協議会の委員も同様だと思うが、保護者会の役員は毎年変わるので、新しい人が協議会委員になったとき、また話し合いが振り出しに戻ってしまうのではないかと心配している。保護者会の役員を辞めた後も協議会に加わるという考えもあると思うが、自分の子どもが学校に在籍している状況で委員を務めている時とは、モチベーションが違うだろう。保護者への説明の仕方に思案しているのが現状である。

〈矢口委員〉（真砂第二中）

真砂第二中では、今までに保護者へのアンケートを2回実施した。1回目は協議会の内容について報告し、適正配置についてどのように思うかを質問したが、なかなかきつい意見もあった。次に、参考統合シミュレーションを提示してアンケートを実施し、ほとんどすべての保護者から回答をいただいた。その中には、「統合してほしくないけれど、統合しなければならない状況なのだろう」という意見もあった。保護者には協議会の内容等について詳しく説明しており、保護者から出た質問についても、これまでの協議会の経緯を踏まえて自分から答えようと思い、今準備しているところである。中学校で統合の時期に当たってしまう親は不安があるようだが、そうではない保護者は、「統合はやむを得ない。真砂地区に小・中学校は6校も必要ないだろう」というのが大方の意見である。

〈事務局〉

統合の時期についてであるが、現時点で、一番遠い将来の推計が平成26年度なので、その段階のシミュレーションを出しているのもあって、平成26年度に統合するというわけではない。統合の方向性が定まってから、時期についても、協議会で決めていただきたい。また、報告会や説明会で必要があれば、参加させていただきたい。真砂第一小・真砂第四小合同説明会は大変有意義だったし、参加させていただきありがたかったと感じている。

〈阿部委員〉

その説明会に真砂第一中からは誰も参加できなかったのも、話し合われた内容の詳細について知りたい。保護者から出た質問に対し、教育委員会の方がどのように答えたのかを教えてください。

〈事務局〉

事前に保護者からの疑問点等を真砂第一小と真砂第四小の保護者会が集約し、事務局に渡してくれたので、事務局でそれをもとに回答書を作り、当日出席いただいた保護者に説明した。回答書の内容はかなりの量であるが、両保護者会とも当日出席できなかった真砂第一小と真砂第四小の保護者へは配布する予定である。もしよろしければ、委員の皆様にもお渡ししたいと思う。主に、これまで協議会でも話し合っていたらいい、適正配置の必要性、推計の出し方、少人数加配教員の状況、少人数指導等について、改めて説明した。

〈阿部委員〉

この協議会で話し合われたことを説明しただけか。

〈事務局〉

他にも、中学校では、統合の時期や統合後のフォローについて、高校受験との関係はどうか等の質問も出たので、それについて答えた。小学校の保護者の多くは、これから中学校に子どもたちが進学させることになるので、中学校の統合の問題を真剣に受け止めているようである。

また、真砂第四小の保護者の方は、年々学級数が減り、専科教員も配置されなくなってきており、適正配置を切実な問題として捉えていると感じた。

イ 小学校の適正配置について

〈富田議長〉

統合について反対だという意見は多くなく、統合の時期や組み合わせ等、具体的なことが知りたいという意見の保護者が多いように受け止めた。

そこでまず、「小学校の適正配置について」協議し、方向性をまとめていきたい。その際、どの学校を残すかということや跡地等については、次の協議としたい。協議に先立ち、事務局に再度この二つのシミュレーションを作成した考え方を説明していただきたい。

〈佐々木委員〉

統合について話し合っていく上で、跡地をどうするのが切実な問題である。統合するなら、跡地となる学校のあり方についてもきちんと話し合っていくたい。

〈富田議長〉

まずは、どの学校とどの学校を統合するか話し合っていく、どの学校を残すか、跡地はどのように活用するかといったことは、その後の議題になる。

〈佐々木委員〉

どの学校とどの学校を統合するか決める前提として、跡地についても話し合いたい。

〈北澤会長〉

跡地も重要な問題であるが、段階を踏んで話し合っていくたい。まずは、どの学校とどの学校を統合するか決め、その後、跡地についても協議し、方向性を決めていく。

〈久保田委員〉

その話し合いをする前に、参考統合シミュレーションについて、意見を言いたい。自分の住んでいる地区の住人に、適正配置についてアンケート調査をした。町内会では子どもは増えていると感じている。「学校が近くにあって便利だからここに住んでいる。今の状態が学校の適正な配置ではないか。」という考えの住民もいるし、これを理由に新しく住む人も増えている。このようなことを踏まえると、統廃合には、反対という住民が多いし、人口も減らな
いだろうと思っている。今後の住宅の建て替えに合わせて、子どもも増えるだろうし、高層集合住宅も建つかも
もしれない。それから、子どものための教育改革なのであれば、最近話題となっている小中一貫教育についても検討して
いくべきである。今でも人気のある街なのだから、現状を変える必要はないし、小中一貫教育を実施し更に人気を出
していけば、賃貸住宅に若い人が入ってくるようになり子どもは減らないだろう。資料のシミュレーションは誤
っているのではないか。私は、統廃合には反対である。

〈事務局〉

今一度シミュレーションを見ていただきたい。シミュレーションは、開発の状況もすべて反映させて、平成26年度まで推計している。統合が行われない場合、平成26年度には、真砂第二小を除いた真砂地区のすべての学校が12学級未満の小規模校になると予想される。そういった状況の中で、まず考えなければならないことは、どのようにして子どもたちの教育環境をよりよくするか、ということである。現在でも、真砂第四小は児童が急激に減っており、単学級になった学年があり、専科教員も配置されなくなっている。非常に切実な問題として、保護者も心配していると聞いている。統合し、学校を一定規模にすることで、教育環境をよくしていきたいと考えている。

参考統合シミュレーション1は、現在の中学校区のみとまりの中で統合を考えたものであり、シミュレーション2は、その比較対象として作成したものである。現在の学校同士の交流等を考慮すると、シミュレーション1の方がよいのではないかと思う。さらに、二つの統合校の規模のバランスも取れており、特別支援学級も両校に存続できるだろう。第2次千葉市学校適正配置検討委員会で、18学級が最適な学級数という意見があったが、一番近い形になるのではないか。互いの距離も近く、より望ましい組み合わせであると考えている。

地域の方が統合しなくていいのではないかという意見ということだが、もっと学校の状況を見ていただきたいと思う。今後住民が増え、子どもが増える可能性についても否定はできないが、世代交代で増えると言っても、微々たるものだろう。そのようなことを考えていたら今の学校の状況は改善されない。教員の立場からすると、学校の多忙化は、教育委員会からの事務量が増えたせいではなく、小規模化により教員数が少なくなっていることが原因となっていると考える。

〈久保田委員〉

住民としては、人が増えてきていると感じており、このままでよいと思う。

〈矢口委員〉

大切なことは、子どもたちの教育環境、つまり「学校」をどうよくしていくのかであって、「居住者」ではない。適正配置は、子どもたちと学校のために考えていくものである。

〈成田委員〉

久保田委員から、子どもが増えそうだという意見が出たが、今は減ってしまっているのが現状である。子どもたちにとって何が一番よいのかを考えれば、シミュレーションに沿って統合すべきである。その際、子どもが増えた場合についても想定する必要があるだろう。また、跡地については、教育委員会に跡地活用の構想を出していただきたい。その構想に対してこちらから意見を言うという形にしたいと思う。

〈出町委員〉

統合は学級数や先生の数が増えるので、子どものためによりよいことではないか。

資料のシミュレーションは、小学校と中学校それぞれでシミュレーションをしているので、小中一貫校にしたらどうなるのか、というシミュレーションも見てみたい。

〈矢口委員〉

小中一貫教育にして、4・3・2制にすることも可能なのか。

〈事務局〉

今は、まず小学校の適正配置について方向性を決め、その後、中学校について話し合っていくという順序で協議している。中学校の方向性を話し合っていく中で、今の意見も整理が付けられるのではないか。小学校の統合はその前提になるので、まず、小学校について方向性をきめていただきたい。

〈高橋委員〉

保護者の方は、「真砂第三小、真砂第四小は規模が小さくなりすぎているから、統合したほうがよい」という意見だと思う。そうであれば、現在の中学校区で区切って統合するのがよいのではないか。どの学校を残すかは、施設の状況等で決めればいだろう。真砂地区の学校用地は企業庁の土地ではないのか。

〈事務局〉

真砂地区の学校用地はすべて市の土地である。跡地の活用については、真砂地区のためにどのように活用していくのか、この協議会で話し合ってください。現に花島小の跡地は、地域のためにも有効に活用することが決定している。

〈岩井委員〉

また前回の協議会に逆戻りしている。前回、この次には、具体的にシミュレーションについて検討していくという話になったのに、今日話し合うべきことが、話し合われていない。今日話し合うべき、小学校の適正配置の方向性について議論したい。

〈嶋田委員〉

話が行ったり来たりしており、話し合うファクターが順序立っていない。小中一貫教育や、跡地の活用は、この後の問題だろう。以前、土屋明子委員が言ったように、「まず、小学校をどうするかについて話し合い、次に中学校について話し合う。」という順序があつてしかるべきだろう。まず、小学校はどの組み合わせの統合がよいのか、前向きに話し合いたい。

〈土屋(明)委員〉

適正配置について、広く地域住民が関心を持つことはよいことである。この真砂地区は真砂第一中区と真砂第二中区と分かれている。この中学校区が一つになるのは、大きな問題であり、まとめるのもたいへんだと思う。小学校の統合については、中学校区で統合するシミュレーション1がよいのではないか。その後、中学校について検討していけばよいだろう。

〈阿部委員〉

学校の土地は市が所有していると聞いた。現在、千葉市の財政は大赤字で、今後市長も変わる中で、ここで話し合われた跡地の活用の方向性が、本当に市の行政に反映できるのか心配している。仮に民間企業に跡地を売却されたら終わりである。後ろ向きの考えで申し訳ないが、法に違反しなければ、跡地をどう活用するかは、やはり市が決めるのではないか。統合したとしても、お金がない市が校舎の建て替えなどできるのか、という不安もある。

〈事務局〉

跡地の活用については、実施方針で、地域住民のために活用していくことが明記されている。実施方針は、教育委員会だけが決めたものではなく、千葉市として決めたものであり、この方針に沿って進めていく。現在、旧花見川第五小は、地域住民に活用する方向で話し合いを進めており、有効活用していくことになっている。跡地については、我々も地域住民の意見をふまえ、有効活用していく責務を負っている。その上で、場合によっては（例えば福祉施設等の）民間に売って民間に活用してもらった方がよいのではないかと、という意見が出るかもしれないが、その際も、協議会からの意見・要望を聞かせていただく。協議会で出された意見はきちんと尊重していく。

〈冨田議長〉

ここで、小学校の適正配置の方向性について、結論を出したいと思う。小学校の統合は、シミュレーション1と2のどちらがよいか、挙手により決めたい。

**○出席委員18人、欠席委員1人のなか、シミュレーション1に賛成が16人、
反対が1人、棄権が1人**

〈冨田議長〉

シミュレーション1の、真砂第一小・真砂第四小の統合と真砂第二小・真砂第三小統合という方向性でまとめたい。会長の意見を伺いたい。

〈北澤会長〉

シミュレーション1が望ましいのではないかと思う。

〈富田議長〉

事務局の意見を伺いたい。

〈事務局〉

シミュレーション1の方向性で進めさせていただきたい。

〈矢口委員〉

確認だが、仮に真砂第五小が真砂地区に加わった場合は、真砂第一小・真砂第四小の統合校に加わるということでよいか

〈議長〉

その通りである。

〈事務局〉

中学校の方向性の話し合いに入る前に、統合後の教育環境、特に教員の加配がどのように配慮されるのか聞いておきたい方は多いと思うので、説明させていただく。「統合して学級が増えることはメリットだが、学級の人数が急に増えることは不安だ」という意見もあったように、統合後の当分の間は、現行の千葉市の教員配置基準に上乘せする形で、少人数学習指導教員の加配について、何らかの対応をしていく必要があると考えている。

現在、市の少人数学習指導教員の配置基準は、小学校1～3学年で36人の学級の生じた学年に一人配置するというものである。そこで、千葉市の小学校の1学級の平均人数である31人を一つの基準として、小学校が統合したときに、31人以上の学級が生じた学年については、少人数学習指導教員を一人配置していきたいと考えている。例えば、参考統合シミュレーション1の真砂第一小と真砂第四小の統合校では、5学年と6学年が31人以上となる。6年生は39人なので県の加配教員が配置されるが、現行の配置基準では加配教員が配置されない5年生にも、市の少人数学習指導教員が一人配置されることになる。真砂第二小と真砂第三小の統合校では、1学年・2学年・3学年に、一人ずつ配置されることになる。

また、通学路の安全性についても不安があると思うが、統合校へはスクールガードアドバイザーを専属で配置していきたいと考えている。校舎の改修については花島小と同じように大規模改修を行いたい。

ウ 中学校の適正配置について

〈富田議長〉

次に、中学校の適正配置について話し合っていきたい。中学校については、統合せず現状のままでよいのではないか、という意見もあったが、中学校を小学校と別の時期に統合することになると、両方で統合を経験する子どもが出てくることを懸念している方もいるだろう。

〈事務局〉

今までは小学校をメインに話し合っていたので、あらためて、中学校の適正配置の必要性について説明したい。

真砂地区の平成26年度の中学校の状況を見ていただきたい。統合しない場合、真砂第一中、真砂第二中とも、各学年2学級、学校で6学級となると予想されている。中学校は教科担任制をとっており、9教科の科目があるが、小規模校では、教科によっては免許外の教員を配置したり、非常勤の講師を配置したりせざるを得ないという状況である。非常勤教員は、毎日いるわけではなく、いても一日中いるわけではないし、授業が職務であり、事務分担をお願いすることはできない。なお、免許外の教員を配置しなくてもよい学校規模のラインは、9学級～10学級規模である。できれば各教科の担当教員が、各学年に1人、学校全体で3人配置されることが望ましい。学校外の教員との交流もあるが、「今、そしてこの学校」にとって一番適した指導を話し合えるのは、同じ学校にいる教員同士である。これが、学校規模を適正規模にし、学校当たりの教員数を増やす必要がある理由の一つである。

また、青年期に入る中学生は心身ともに急激に成長する時期である。体力もつき、いわゆる反抗期でもある。そのような中学生を指導するには「学年」が非常に重要である。「学年」という社会集団の中で、教員がいろいろな役割を持って指導することが必要であり、効果的でもある。学年に複数の教員がいれば、例えば、生活担当の先生が厳しい話をし、担任が生徒を諭し、学年主任は全体的な視点で指導するといった役割分担をすることができる。学年に多くの教員がいて、学年主任・副学年主任・進路担当、生活担当・生徒会担当等を教員経験や得意分野に応じて担い、指導していくことが望ましい。

「中学校の生徒は行事でつないでいく」という言葉があるように、中学生は行事を通じて自己実現や人間関係を深め、大人になっていく。私たちも子どもの頃にそういう経験があったと思うが、合唱祭や体育祭等を学級対抗や学年縦割りで先輩後輩と汗を流す中で、感動体験を味わったのではないかと思う。小規模校でも、教員はこうした体験を子どもたちに味わせるために、現状の中でいろいろ工夫しているが、限界はある。達成感や充実感のある行事を体験した子どもたちは、仲間意識も高まり、落ち着いた学校生活を送ることが多い。

部活動も子どもたちのニーズにあった部活動を開設していきたいと考えるが、小規模校ではなかなか難しい。教員の数がないのであれば、「外部のコーチに指導してもらえばよい」という考えもあるが、部活動は教育の一環である。確かに外部のコーチの助けはありがたい。しかし、外部コーチは部活動での生徒の姿しか見ることができず、えてして勝つためにどうするかを考えがちである。教員は、学校生活全体をとおして生徒の姿を見ており、その中で部活動を指導している。部活動の資料を見ると、小規模校でも多くの部活動を開設しているように見えるが、教員が掛け持ちでやっているのが現状である。本来なら、一つの部活動に複数の顧問の教員が専属でつくことが望ましい。

真砂地区の中学校は、現状のままでは、将来的に両校とも6学級になると予想され、中学校を活性化させていくには、教員に相当の工夫が必要だし、限界もあるだろう。中学校を活性化させていくためにも、統合により、学年当たりの学級数を増やし、教員数を増やすことが必要であると考えている。

〈阿部委員〉

今の説明は、メリットの説明だけである。真砂第一中は現在7学級で、来年度は8学級になる。アンケートを実施した結果、保護者は、統合して人数が増えることによる人間関係の変化を懸念している。中学生は多感な時期であり、統合して倍以上の人数になることや学区が広がることを非常に心配している。教員の数が増えて充実するというが、そんなことより、教員の質を上げてほしい。問題は人数ではなく、質である。それに部活動の指導についてだが、先生の方が勝ちにこだわっているような指導もある。一概によくなるとは言えないのではないかな。

〈富田議長〉

まず考えるべきことは、生徒の教育環境である。次に、学校を支える育成委員会等について、話し合っていきたい。

〈久保田委員〉

自分の地域は若い夫婦が親を頼って戻ってきているような状況である。

〈矢口委員〉

真砂第二中で実施したアンケートの結果、「人数が少なくて切磋琢磨がない。やはり人数は多いほうが、いろいろな経験ができる」という意見が多かった。先生の質の低下はあるかもしれないが、それはここで議論しても仕方がないだろう。教員は多い方がよりよいのではないかな。

〈森本委員代理赤木氏〉

真砂第二中のPTAの会長を務めさせていただいているが、保護者は、「子どものためにも、多くの人数で切磋琢磨することがよい。」「合唱祭や体育祭も学年2学級では少ない。」「中学校に進学してやりたい部活動があっても、生徒が少ないと続けられない。」という意見である。今すぐ子どもが増えるわけではないので、現状を何とかしなければならぬと思う。中学校の統合について前向きに検討していただけたらよいと思う。

〈事務局〉

今回は、中学校の統合について話し合っていたきたい。小中一貫教育についても情報提供をさせていただきたい。